

W204c **SPICA 搭載中間赤外線分光撮像装置の構造再検討**

片坐宏一、和田武彦、猿楽祐樹（宇宙航空研究開発機構）、左近樹、小林尚人（東京大学）、  
ほか MCS チーム、SPICA プリプロジェクトチーム

SPICA 搭載観測装置は国際科学 / 技術審査を終えて、搭載にむけたさらなる設計の改良をすすめているところであった。しかし、2014 年度の概算要求が認められず、これに伴って国際的な役割分担の見直しを行っている。そして装置の仕様についても再度見直しが行われる予定である。このような状況とは独立に設計の改良として、我々は光学系と構造の見直しを行い、SPICA 搭載機器共通の光学ベンチからなるべく独立させて単独の箱に納めるように変更を行った。この変更は主として観測装置全体の組立て調整における工数の低減を狙ったものであるが、同時に現在進行中の機器の見直しにも対応が容易になるものである。本発表ではこの改良された構造について報告し、今後の見直しに対する技術的な対応可能性についても触れる。